

Special Essay

情報発信源としての図書館

医学部長 赤須 崇

情報はすでに多くの大学や企業で IT 化され、電子化された情報はデータとして多くの人に利用されるようになってきました。本学も学内 LAN の構築は早く、論文も電子ジャーナル化されたおかげでいち早く入手できようになり、種々の検索も可能になっております。しかし IT 化情報の地域医療への提供や医学教育の有効利用という面で考えると久留米大医学部はどうでしょうか。情報の発信源としての役割は、本学が持っている多くの情報（知的財産）が有効に利用されたとき始めてその役割を果たしたといえます。しかし、教育、研究、診療が IT の利用によってどのように充実、発展するかについてはあまり論議されていません。平成 18 年に「IT 化教育推進委員会（仮称）」が教授会で認められました。その時に提出された「医学教育のあり方と統合型医学情報センター」の構想中で、医学教育や、実質化に伴う大学院教育の更なる充実を図るためには、教職員の大幅な増員が望めない今日、IT 利用による医学教育を早急に導入しなければならないこと、本医学部と卒業生や地域医療者との連携を図ることが益々必要となる状況下で、本医学部が医学情報発信基地となることが必要であることなどから、現在の医学図書館を統合型医学情報センターに移行し、統合すべきであると述べられています。この点は多くの久留米大学医学部教職員で共通の認識と考えて良いでしょう。今後はこの委員会を中心に IT 化が進められるものと思われまます。本学医学部の最も大切な役割は良き医師を育てるための教育、研究の充実と大学病院での最新医療の提供であり、この点で情報の IT 化は不可欠と思われまます。しかし、医学情報センターは何を行うのか、各部署でどのような情報を提供できるのか、そのために何が必要となるかなどの提案が必要になってくると思われます。その上で、どれだけの経費がかかり、どれだけ経費節減ができるかといったことにまで知恵を絞らなければ、結果的に絵に描いた餅に終わる可能性があります。できるだけ多くの部署で、よりよい提案をしていただき、IT 化が実行に移されることを期待しています。

